

平成30年度 回復期リハビリテーション病棟 実績

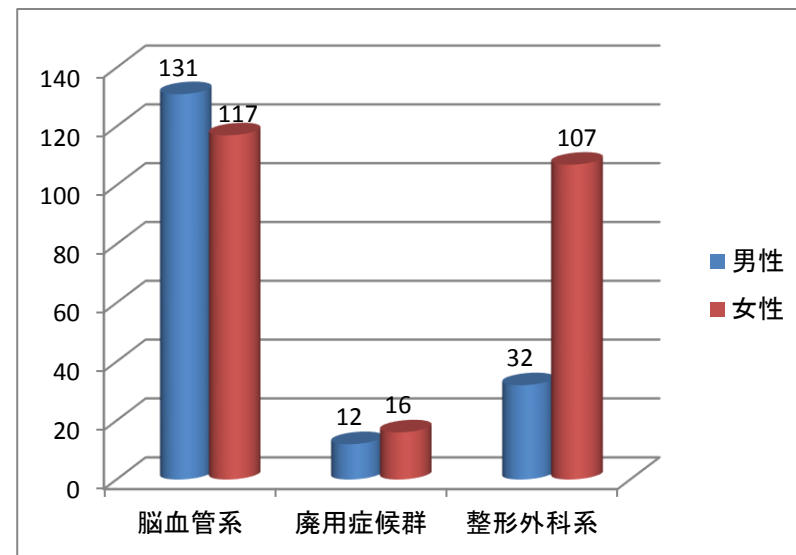
医療法人 篠田好生会
篠田総合病院 回復期リハビリテーション病棟

①疾患別男女別入院人数

	脳血管系	廃用症候群	整形外科系	合計
男性	131	12	32	175
女性	117	16	107	240
合計	248	28	139	415

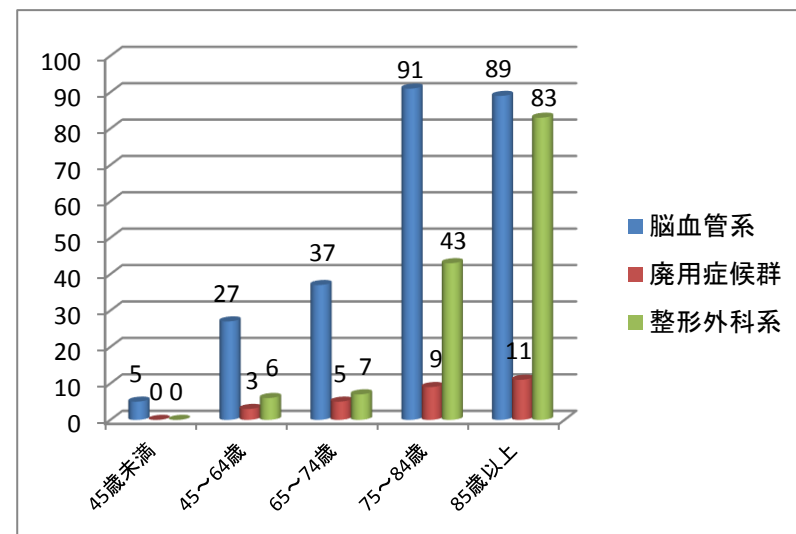
②比率

	脳血管系	廃用症候群	整形外科系	合計	全国平均
男性	32%	3%	8%	42%	42.4%
女性	28%	4%	26%	58%	57.6%
合計	60%	7%	33%	100%	
全国平均	45.1%	7.0%	46.4%		



③疾患別年齢別入院人数

	脳血管系	廃用症候群	整形外科系	合計	全国平均
45歳未満	5	0	0	5	
45～64歳	27	3	6	36	
65～74歳	37	5	7	49	
75～84歳	91	9	43	143	
85歳以上	89	11	83	183	
平均	78.6	79.8	84.5	80.6	76.5
全国平均	73.1	80.5	79.3		

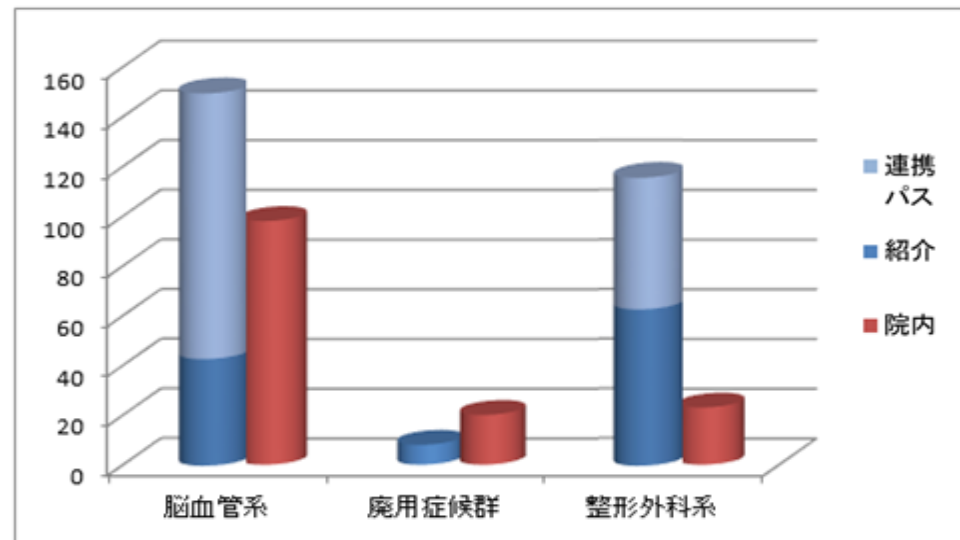
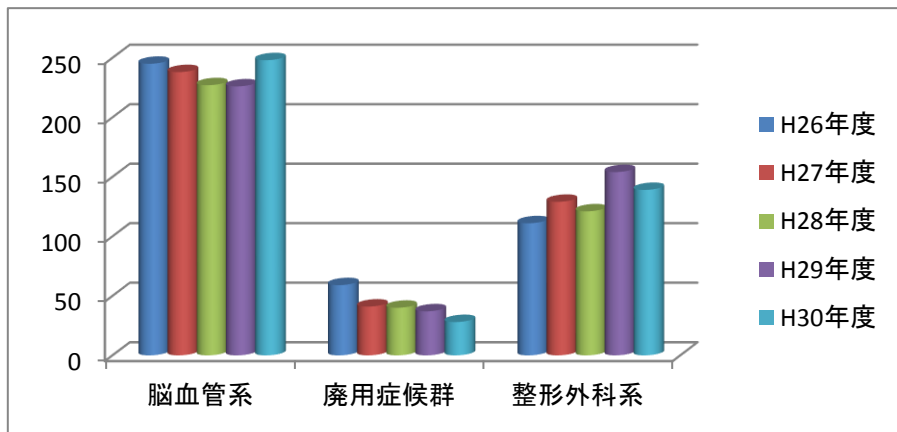


④比率

	脳血管系	廃用症候群	整形外科系	合計	全国平均
45歳未満	1.2%	0.0%	0.0%	1.2%	2.7%
45～64歳	6.5%	0.7%	1.4%	8.7%	12.3%
65～74歳	8.9%	1.2%	1.7%	11.8%	20.2%
75～84歳	21.9%	2.2%	10.4%	34.5%	35.2%
85歳以上	21.4%	2.7%	20.0%	44.1%	29.6%

⑤年次推移

	脳血管系	廃用症候群	整形外科系	合計
H26年度	245	59	111	415
H27年度	238	41	129	408
H28年度	227	40	121	388
H29年度	226	37	154	417
H30年度	248	28	139	415



⑥入院経路別件数

※連携パス(地域連携クリティカルパス)とは

急性期病院から回復期病院を経て早期に自宅に帰れるような診療計画を作成し、治療を受ける全ての医療機関で共有して用いるものです。また、診療にあたる複数の医療機関が役割分担を含め、あらかじめ診療内容を患者に提示・説明することにより、患者が安心して医療を受けることができるようにするものです。

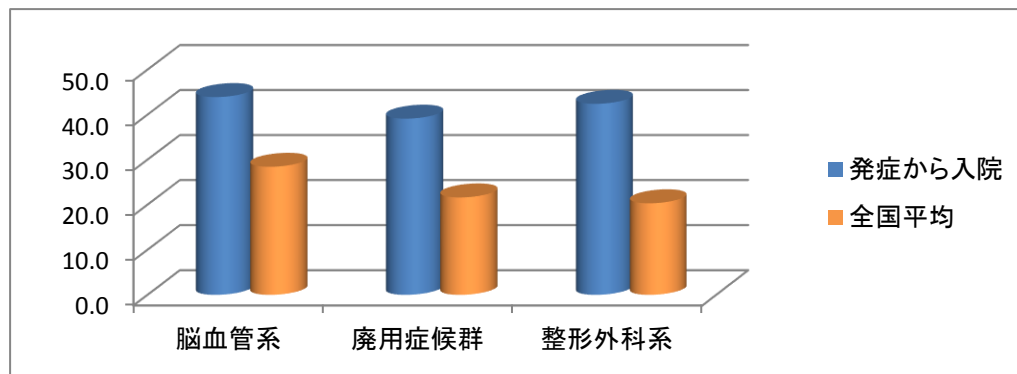
回復期病院では、患者がどのような状態で転院してくるかを把握できるため、改めて状態を観察することなく転院早々からリハビリを開始できます。(厚生労働省HP参考)

	脳血管系		廃用症候群	整形外科系		合計	連携パス(再掲)	連携パス適用率
		※連携パス(再掲)			連携パス(再掲)			
急性期病院A	27	20	1	16	10	44	30	68.2%
急性期病院B	88	76	3	46	39	137	115	83.9%
急性期病院C	2		0	13	9	15	9	69.2%
急性期病院D	2		0	8	0	10	0	0.0%
急性期病院E	20	11	4	2		26	11	42.3%
その他	11		0	31		42		
小計	150	107	8	116	58	274	165	60.2%
当院	98		20	23		141		
合計	248	107	28	139	58	415		

⑦疾患別発症～回復期リハビリテーション病棟転院までの期間

	脳血管系	廃用症候群	整形外科系	合計
最大	65	61	61	/
最小	6	0	11	
平均	43.9	39.1	42.4	
全国平均	28.4	21.6	20.3	

(日)



⑧疾患別BI(一般病棟への転棟を除く)

※BI(Barthel Index)とは

ADL(日常生活活動)を評価する為の指標であり、セルフケア(食事・更衣・整容・入浴)、移乗・移動、排泄コントロール等の10項目からなります。いずれの項目も全介助は0点で、全項目自立していれば100点で換算します。得点が高いほど自立度が高いとされています。

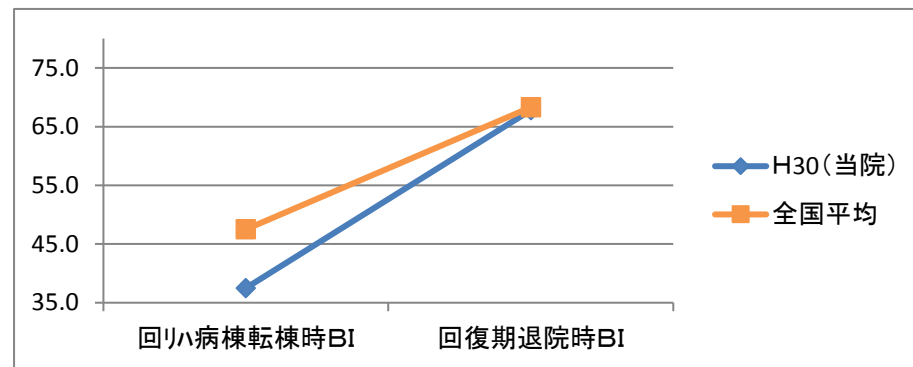
この指標は実際に患者が行っている動作ではなく、検査や訓練で実施できるかを評価します。

(医学書院 系統看護学講座 リハビリテーション看護参考)

ア)全体

	回リハ病棟転棟時BI	回復期退院時BI	改善値
H30(当院)	37.5	67.8	30.3
全国平均	47.5	68.3	20.8
標準偏差	± 25.2	± 31.7	± 20.2
中央値	40	80	30
最大値	95	100	95
最小値	0	0	-20

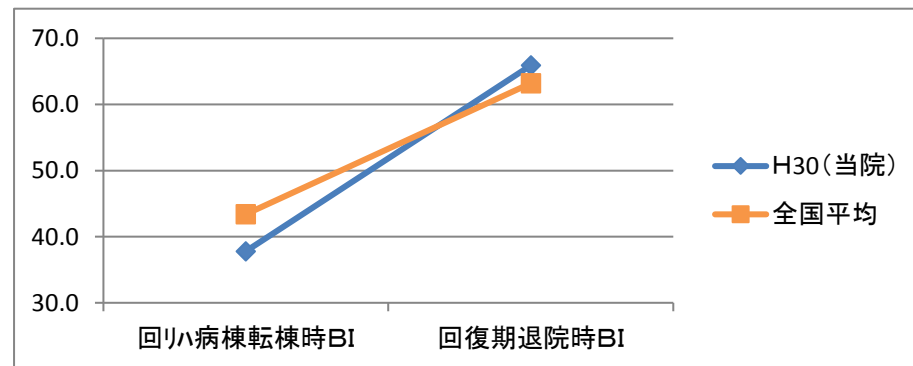
(H27年度)



イ)脳血管系

	回リハ病棟転棟時BI	回復期退院時BI	改善値
H30(当院)	37.8	65.9	28.1
全国平均	43.4	63.2	19.8
標準偏差	± 28.5	± 34.7	± 21.0
中央値	40	85.0	25
最大値	95	100	95
最小値	0	0	-20

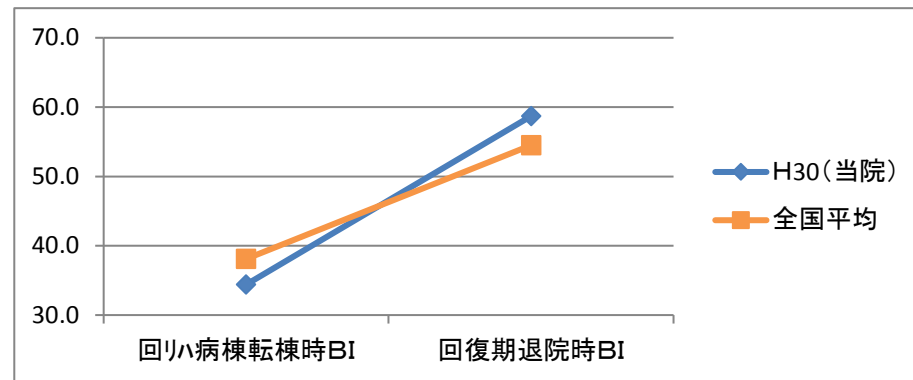
(H27年度)



ウ) 廃用症候群

	回リハ病棟転棟時BI	回復期退院時BI	改善値
H30(当院)	34.4	58.7	24.3
全国平均	38.1	54.5	16.4
標準偏差	± 25.2	± 36.1	± 20.8
中央値	35	70	25
最大値	90	100	70
最小値	0	0	-15

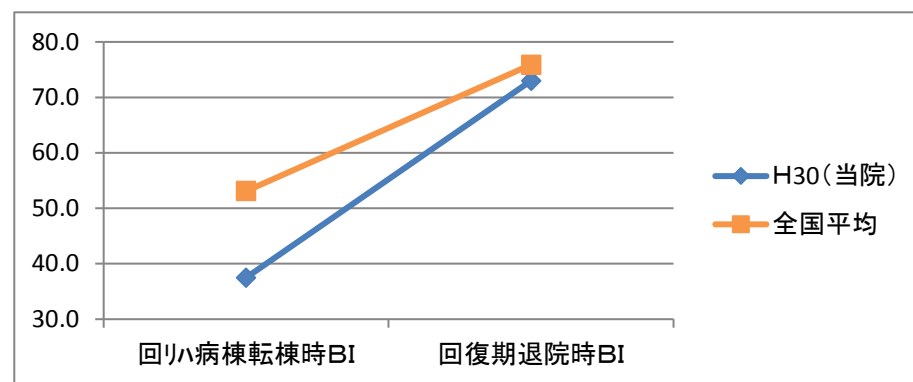
(H27年度)



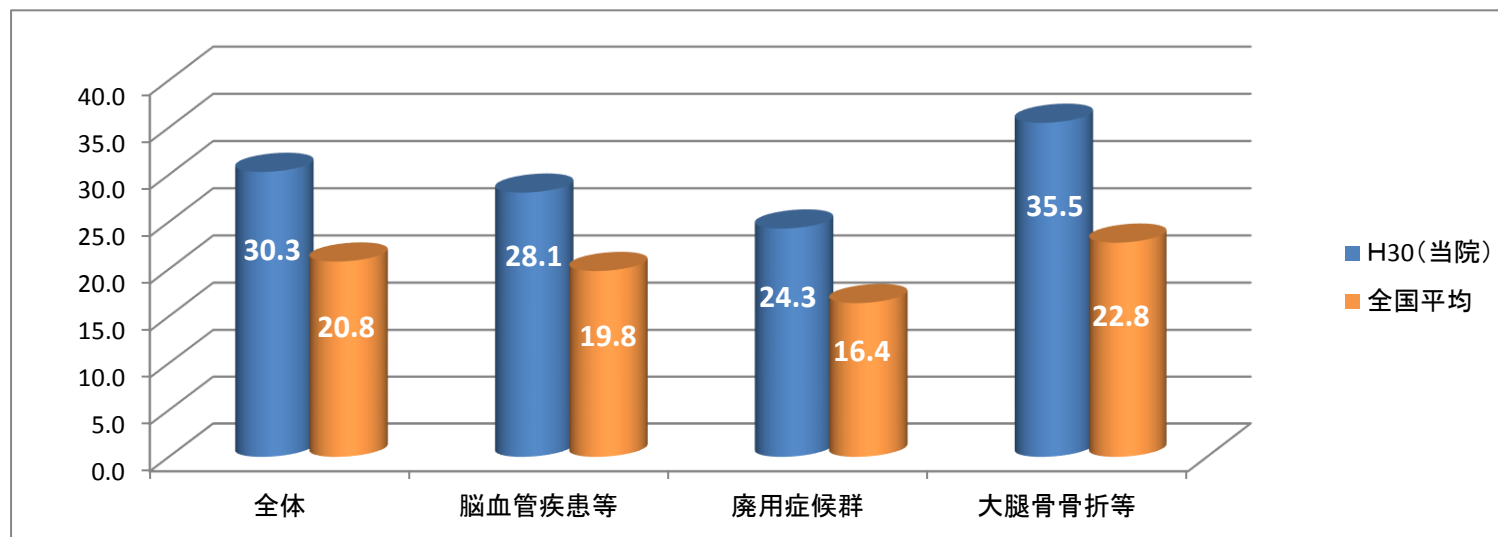
エ) 整形外科系

	回リハ病棟転棟時BI	回復期退院時BI	改善値
H30(当院)	37.5	73.0	35.5
全国平均	53.1	75.9	22.8
標準偏差	± 18.8	± 24.2	± 17.6
中央値	35	80	35
最大値	85	100	75
最小値	0	0	-20

(H27年度)



⑧—2 改善値比較 (BI)



⑨疾患別FIM(一般病棟への転棟を除く)

※FIM(Functional Independence Measure)とは

ADL(日常生活活動)を評価する為の指標であり、BIのセルフケア(食事・更衣・整容・入浴)、移乗・移動、排泄コントロール等に加え、コミュニケーションと社会的認知が含まれた18項目からなります。得点範囲は18～126点で、得点が高いほど自立度が高いとされています。

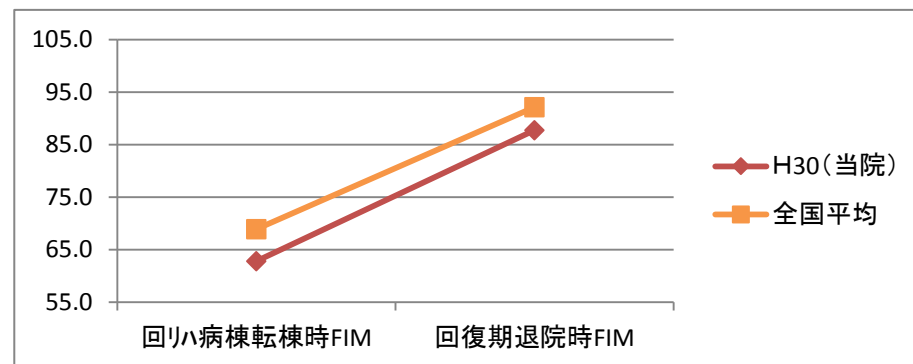
この指標は、患者が実際に行っていることを評価します。

BIは「できるADL」、FIMは「しているADL」と区別されています。

(医学書院 系統看護学講座 リハビリテーション看護参考)

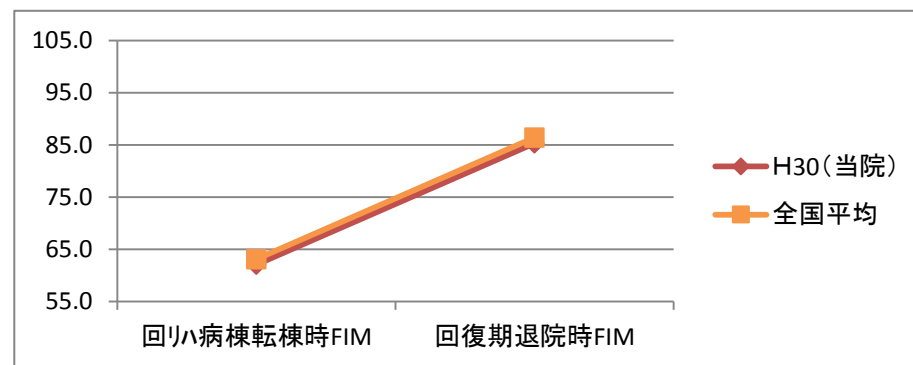
ア)全体

	回リハ病棟転棟時FIM	回復期退院時FIM	改善値
H30(当院)	62.8	87.7	24.9
全国平均	68.9	92.1	23.2
標準偏差	± 27.1	± 32.1	± 17.7
中央値	63	99	23
最大値	123	126	79
最小値	18	18	-34



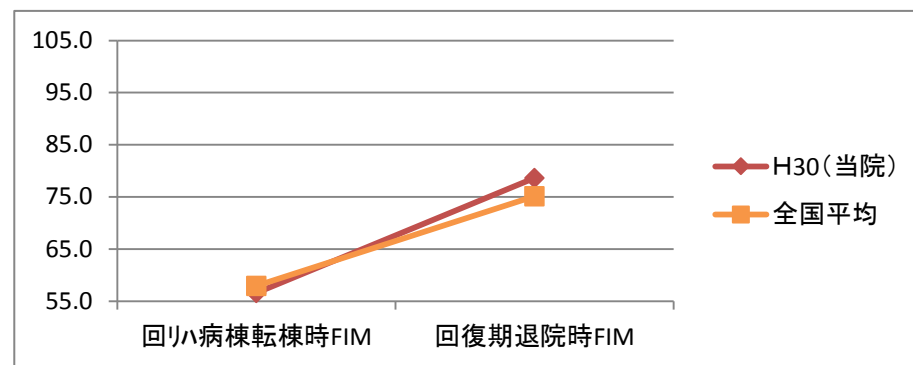
イ)脳血管系

	回リハ病棟転棟時FIM	回復期退院時FIM	改善値
H30(当院)	62.0	85.3	23.3
全国平均	63.1	86.4	23.3
標準偏差	± 29.5	± 34.9	± 18.5
中央値	63	102	20
最大値	123	126	79
最小値	18	18	-34



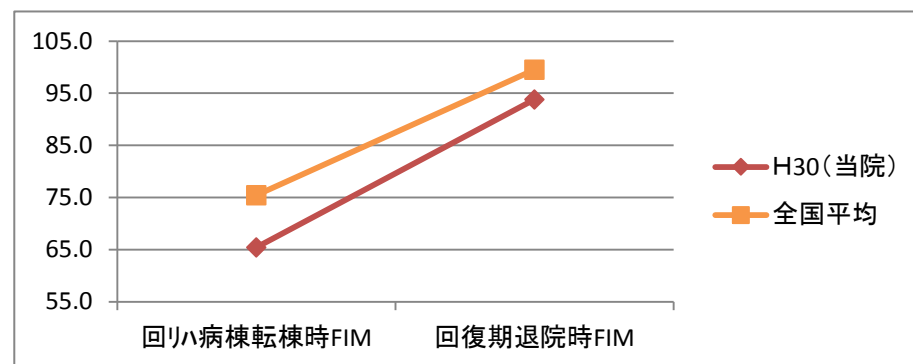
ウ) 廃用症候群

	回リハ棟棟転棟時FIM	回復期退院時FIM	改善値
H30(当院)	56.6	78.6	22.0
全国平均	57.9	75.1	17.1
標準偏差	± 27.8	± 31.5	± 18.4
中央値	55	88	16
最大値	112	122	73
最小値	18	18	0

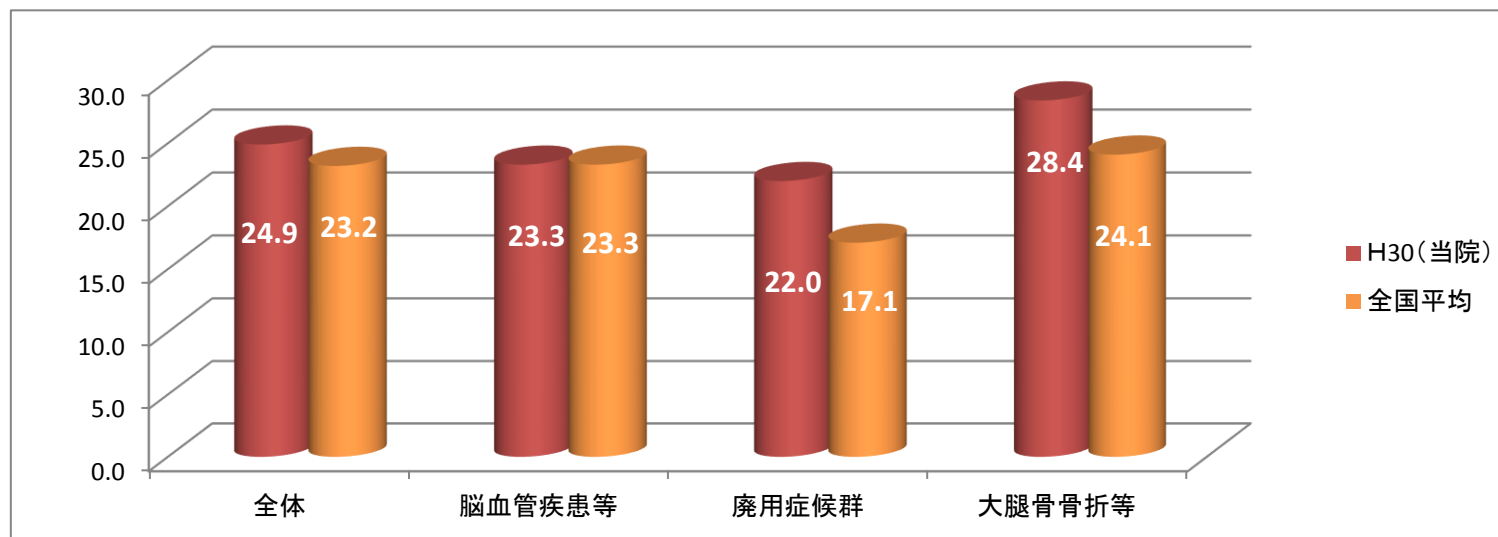


エ) 整形外科系

	回リハ棟棟転棟時FIM	回復期退院時FIM	改善値
H30(当院)	65.4	93.8	28.4
全国平均	75.4	99.5	24.1
標準偏差	± 22.1	± 25.8	± 15.7
中央値	64	103.5	30
最大値	116	126	68
最小値	19	24	-13

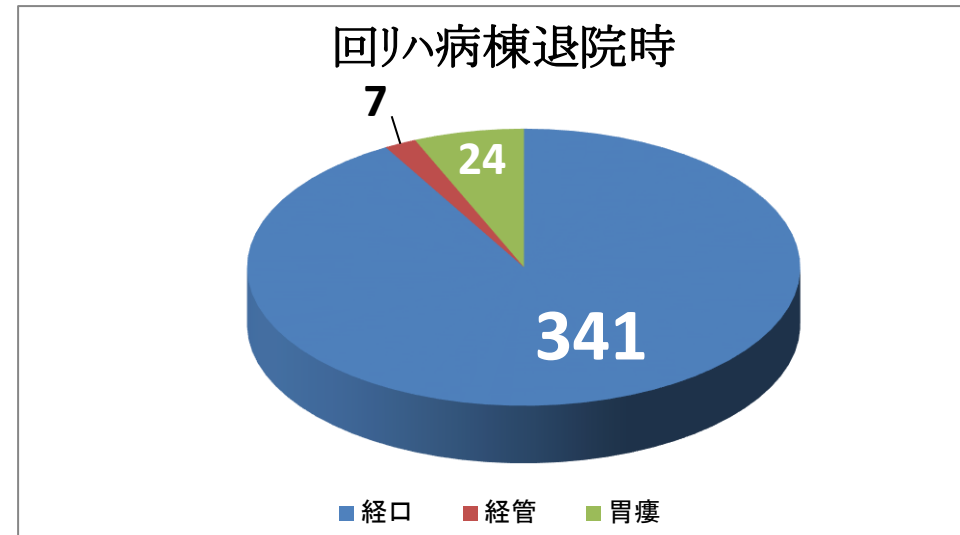
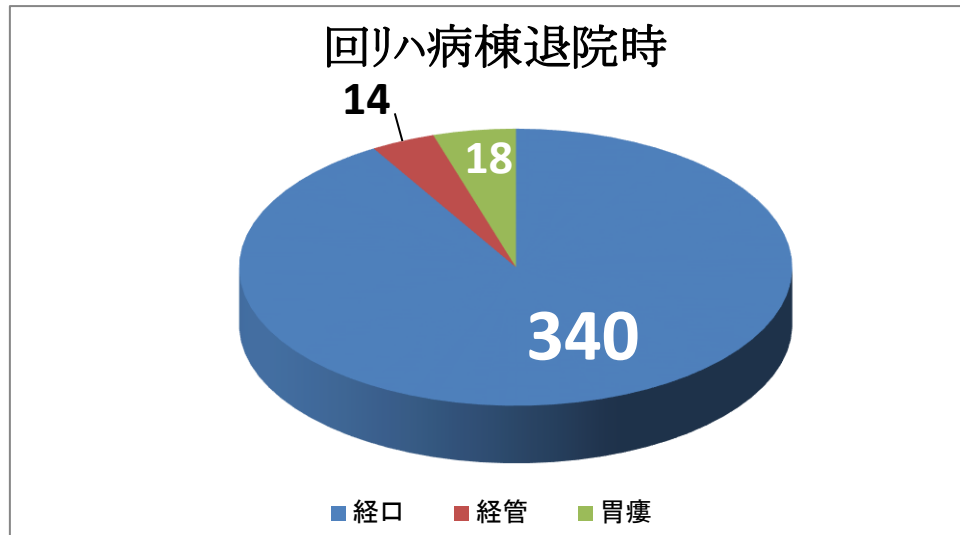


⑨—2 改善値比較(FIM)



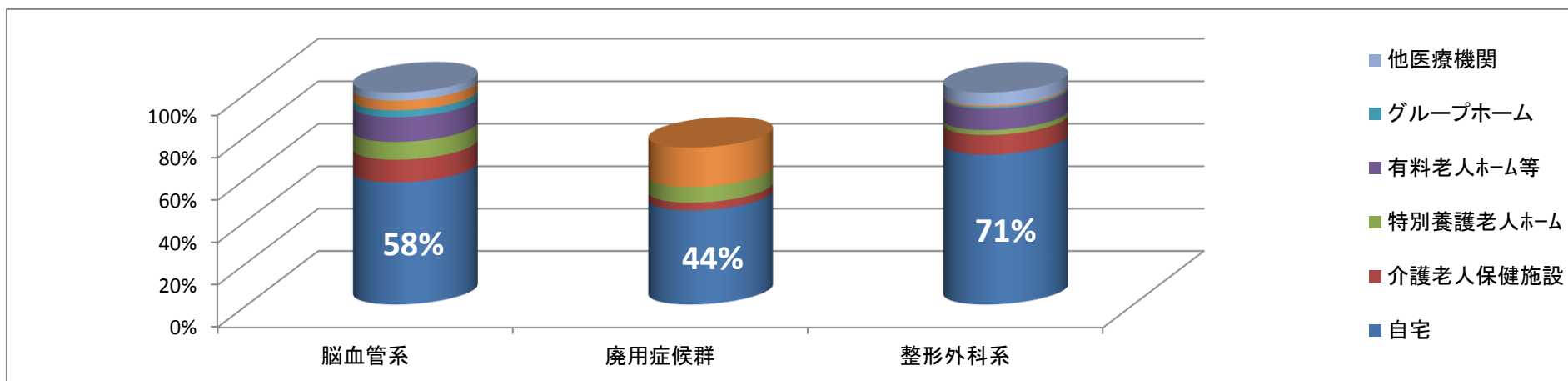
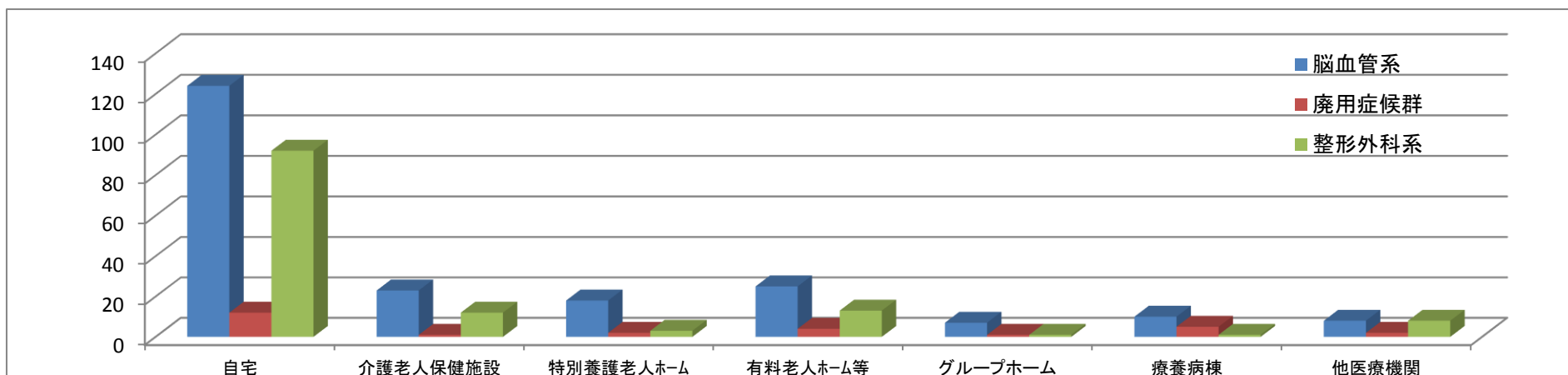
⑩食事摂取経路比較(入院時、退院時)(一般病棟への転棟を除く)

		退院時		
		経口	経管	胃瘻
入院時	経口	340	336	2
	経管	14	3	4
	胃瘻	18	2	15
		341	7	24



⑪疾患別退院先別件数

	(人)			(%)	全国平均	
	脳血管系	廃用症候群	整形外科系	合計	率	
自宅	124	12	92	228	61.3%	68.1%
介護老人保健施設	23	1	12	36	9.7%	6.5%
特別養護老人ホーム	18	2	3	23	6.2%	2.5%
有料老人ホーム等	25	4	13	42	11.3%	9.2%
グループホーム	7	1	1	9	2.4%	2.7%
療養病棟	10	5	1	16	4.3%	4.6%
他医療機関	8	2	8	18	4.8%	
合計	215	27	130	372	100.0%	



※全国平均：回復期リハビリテーション病棟の現状と課題に関する調査報告書 平成31年2月（一般社団法人 回復期リハビリテーション病棟協会）